



第69回都市計画全国大会

～岩手県盛岡市～

茨城県土木部都市局公園街路課 中口 敬太

平成29年11月16日から17日まで、第69回都市計画全国大会が岩手県盛岡市で開催されました。

全国から都市計画やまちづくり行政に携わる関係者が集まり、事例発表や意見交換、現地調査が行われました。



■大会1日目

○主報告（国土交通省大臣官房審議官 榊 真一 氏） 「都市行政をめぐる最近の動きについて」

昨今、人口減少・高齢化や公共交通の縮小などの課題から、生活サービス機能と居住を集約・誘導し、人口を集積する「コンパクトシティ化」と、まちづくりと連携した公共交通ネットワークを再構築する「ネットワーク化」が必要とされている。このため、国においては、関係府省庁によるコンパクトシティ形成支援チームを設置し、市町村への府省庁横断的な支援を行っている。現在では、全国の多くの都市で「立地適正化計画」が作成され、コンパクトシティ形成に向け、様々な取り組みを行っているとのこと。

また、都市緑地法等の改正を受けて、公募設置管理制度（Park-PFI）、市民緑地認定制度、生産緑地制度等を積極的に活用していくことで、民間活力を最大限に活かし、緑豊かで魅力的なまちづくりを実現していくための取り組みを、地方自治体とコミュニケーションをとりながら進めていくとの報告がありました。

○部会（第2部会）

「地域の資源を活かした観光のまちづくり」

テーマごとに3つの部会に分かれて報告が行われました。このうち、第2部会では、地域が持つ日本らしい歴史や文化、美しい景観を活かした特色あるまちづくりについて、岩手県平泉町、岐阜県高山市、長崎県長崎市の3市町からのそれぞれ事例報告がありました。

<報告1> 「世界遺産を活かした観光まちづくり」

岩手県平泉町は、「平泉の文化遺産」登録に向け、行政と住民が一体となって取り組んできました。「景観条例」や「屋外広告物条例」により建築物、広告物の規制をするほか、さらなる景観保全のために、住民と一体となり「中尊寺通りデザインコード」を策定し、景観に配慮したまちづくりを進めてきました。また、JRによる景観にマッチした駅の改修など、民間企業による取り組みも積極的に行われておりました。行政だけでなく、民間、住民が一体となってまちづくりを真剣に考え、地域の特性を知ったうえで、まちづくりが行われてきたとの報告がありました。

<報告2> 「高山市における景観と観光地の魅力を向上させるまちづくり」

岐阜県高山市では、江戸時代の面影を残す古い町並みや伝統文化を後世へ残すため、地域住民により「景観保存会」が結成され、地域住民主体のまちづくりが取り組まれてきました。行政は、「景観計画」により、建築物・屋外広告物の色彩や高さの規準を定めたり、重点的に良好な景観づくりを推進する、「景観重点区域」を指定することなど、地域の特性に応じた基準を定め、良好な景観の保全・創出を図ってきました。また、伝統行事への支援を行うことで、ソフト面でのまちづくりにも積極的に取り組んできました。平成29年3月、「景観まちづくり刷新モデル地区」に選定され、JR高山駅前の景観整備やまちの周遊ルートの整備を実施する予定とのことでした。行政、地域住民などの多様な主体が「協働」してまちづくりに取り組むことで、まちの魅力向上に繋がるとの報告がありました。

<報告3> 「長崎市の景観まちづくり～市民協働と景観刷新～」

長崎県長崎市は、市内全域を景観計画区域とし、地区の特性を活かしたまちづくりを行ってきました。長崎市では、市民まちづくり団体に対する補助制度や、各地域団体の情報交換を行う協議会を設立するなど、積極的に市民が参画できる仕組みづくりを行っているとのことでした。さらに「景観専門監」を配置することで、市職員が景観に対する技術向上を図る取り組みをしているとのこと。また、各地区における地域住民や地元大学生



によるまちづくりについての事例紹介がありました。平成29年3月には「景観まちづくり刷新モデル地区」に選定され、「夜間景観の刷新」「祈りの景観刷新」「まちなかの景観刷新」の3本柱での整備を行うことを予定しているとの報告がありました。

○記念講演

「駅を中心としたまちづくり」

東日本旅客鉄道(株) 常務執行役員 浅見 郁樹 氏

JR東日本では、経営目標として「地域との連携強化」を掲げ、駅を中心としたエリア全体の価値向上のための「大規模ターミナル開発」、住んでみたいと思われる「沿線ブランドづくり」、駅の公共機能・コミュニティ機能の充実による「地方中核都市の活性化」に取り組んでいるとのことでした。浅見氏の「『まち』が動けば『駅』も変わり、『駅』が動けば『まち』も変わる」との言葉から、JR東日本のまちづくりへの積極的な姿勢を感じることができた講演でした。

■大会2日目

3班に分かれての現地研修が行われ、私は「紫波・平泉コース」に参加しました。

①都市再生整備計画事業「盛岡城跡公園周辺地区」

戦後の環境変化等により、ランドマークとしての象徴性が薄れつつある盛岡城跡地の歴史的環境を適切に保存・管理するとともに、観光交流センター等の施設の整備を一体的に行っていました。電線の地中化や歩道整備等による良好な景観形成や回遊性の向上により、盛岡城跡公園を中心に歩いて楽しむ環境が創出され、人々が交流する賑わい拠点として、様々なイベントを通して、地元住民と観光客との交流が図られているとのことでした。



盛岡城跡公園（本丸地区）

②都市再生整備計画事業「紫波中央駅前地区」

町民ニーズの高い図書館や老朽化の著しい役場庁舎などの課題に対応するため、公民連携手法による町有地（塩漬けの町有地）活用調査や町民意見交換、市場調査等を踏まえて公民連携基本計画やオガール・デザインガイドラインをまとめ、「オガールプロジェクト」として、

定住・交流人口の拡大や、地域財を地域の人が生かすような地域内経済循環の仕組みを取り入れ、産業振興に取り組み、民間主導型のまちづくり（PPP事業を積極的に活用）が行われていました。

事業を進めるにあたっては、大学教授やまちづくりの専門家の協力をいただくと共に、前町長と町は、2年間で約100回の住民説明会を行い、行政の思いを住民へ伝えることでようやく理解を得ることができたとのことでした。



洗練されたオガールのデザイン

③街なみ環境整備事業「平泉周辺地域の景観形成」

大会1日目の第2部会で事例報告があった平泉地区周辺の景観について視察を行いました。電線類の地中化や石張り舗装、景観に配慮した建築物等、風情を感じるハード整備が行われておりました。また、ハード整備だけでなく、まちの賑わいを取り戻すためには住民協働が必要と考え、学識経験者や地域の代表者などを交えた部会を開き、参道に風情を感じられるデザインや演出等を行うことで、まち全体で歴史的遺構群を守り育てる機運醸成を生み出す取り組みを行っているとのことでした。



平泉駅（駅前の景観整備）

■おわりに

今回の都市計画全国大会では、地域の特色ある資源を活かした官民連携によるまちづくりの事例を紹介していただき、魅力あるまちづくりには、地方自治体の力だけでなく、住民や民間と協働し、地域が一体となり取り組む必要性を痛感しました。本県においても、魅力あるまちづくりを行う上で、どのように住民や民間と関わっていくかが、今後重要な課題のひとつになると思われました。大変参考になる有意義な研修となりました。